



善正寺だより

掲示板法話

先立つ人は尊き善知識

「この命賜りて 有難う」と生き抜く

正月早々の能登半島地震以来、子供たちは、学校の防災教育の影響か、「これは大丈夫?」とか「昭和南海地震にこの本堂は耐えることができるのか?」など盛んに心配をぶつけます。

「昭和19（1944）年12月の地

震では本堂が傾き、屋根瓦が落ちるなどかなりの被害があつたが、倒壊は免れた。本堂の南側に鉄骨の支えがあるが、あれは傾いた本堂を起して支えにされたのだよ」と孫に教えました。「昭和南海地震はM7.9だったから倒壊を免れただけで、M8から9クラスの巨大地震ならばどうなることか、分からぬ」と話すと、孫たちは無言でうなずきました。今後20年から30年の間に起きるかもしれない南海トラフ巨大地震に対しても、若い世代にもしっかりと認識され、防災減災の備えをしてもらわねばなりません。

しかし我々はいつどんなことが起きるか分からぬ恐怖にただ、恐れおののいているだけでは空しいですね。地震がこなぐても、我が無常の命は、いつどんなことで終わるかもしません。

人生百年時代などと言いますが、それも限界があることを忘れてはなりません。この世は「老少不定」（高齢者が先に行くとは限らない）ですから、子や孫に先立たれる場合もなきにしもあらず、です。

「三悪道（地獄、餓鬼、畜生）を離れて人間に生まれたること、大いなる喜びなり」（源信僧都）と言われます。そこで、人間に生まれたからには、また迷いの世界に戻っていくことこそ、空しい。だから、「早く、後生の一大事を心にかけて阿弥陀仏をつかんだのみまひさせて念佛申すべきものなり」（白骨の御文書）と蓮如上人は仰せです。

相次いで、年若き妻子に先立たれた上人は、人一倍無常の身を感じられ、「仏法は若い時にたしなめ」と聴聞を勧められました。

「人身受け難し、今既に受く。仏法聞き難し、今既に聞く。この身今生に向かつて度せずんば、さうにいづれの生に向かつてかこの身を度せん。大衆もろともに至心に三宝に帰依したてまつるべし」（礼讃文・三帰依文）。

〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733



人間には中々生まれられないのに今、人間として生まれてきた。その人間の中でも仏法に遇うのは難しいのに、今まで佛を仰ぎ、仏法を聴き仏法の仲間と共に念佛成仏の道を歩もう（取意）。
先立つ人は我に真の生まれ甲斐を教えられたお方（善知識）です。空しく過ぎる人生でなく、「この命賜りて有難う」と「不退転」の道を生き抜きましょう。



善正寺
ホームページ



住職と坊守の
つれづれ日記

★写真アラカルト★



◇春季永代経 講師：加藤学師

3月16(土)・17(日) 午後1時半

※16日午前10時半：お経開き（招待者）

◇三重組十三日講 3月13日午前・午後 野村康治師
菰野・法林寺様 Web受配信も有り。

◇三全佛教婦人会総会 光念寺様

3月20日（祝・水）午前9時より

【大募集】4月20日（土）1時『初参式』

赤ちゃんや幼児を大募集！千円、写真、冊子進呈
地域皆で仏の子供の誕生を祝福！是非ご参加下さい

夕方5時の鐘撞年中無休、誰でもOK、ご褒美有

一縁会テレホン法話 059・354・1454

三重組5か寺が週替わりで担当。且で3分法話

善正寺ホームページ 30年間毎月発行の善正寺だよりが過去200号に遡り閲覧可能 15年間毎日更新ブログ

『住職と坊守のつれづれ日記』が大好評、総訪問者数

42万9千人突破、お悩み相談可、即返信

新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方相談を

法事場所でお困りの方本堂使用可。寺にご相談を

新法縁廟墓じまいや納骨でお悩みの方ご相談を

あなたは生きる上で何が一番大事ですか?と尋ねられたら、どう返されますか?お力ネ、仕事、家族、健康、財産、地位等・人夫々違います。ロンドンビジネス・スクールのリンク教授がNHKの取材で「人生百年時代を生きる若者に、『無形資産を育てることが重要だ』と提言しています。それには「時間」と深く関わっているので、若い内から次の三つのことに心掛け、「考える習慣」を持つべきです。

① 常に学び続ける心を持つ。
② 心身共に健康であること。健康ならば、外の世界の友人と活動的な日常生活を送れます。

③ 変化と向き合う姿勢を持つ。生成AIが誕生以降、世界は予想外の変化です。これには無関心ではいられませんが、人には機械化できない「感情と繋がり」があります。

この三つの提言を聞いた高校生からは、驚きと焦りの声が聞こえました。

「今まで定年まで働いたら、老後はのんびり優雅に暮らせると思っていましたが、人生百年時代に将来の人生設計は、必ずしも平穀なものではない」「果たして年金をもらえるかどうかも不安。AIに仕事を奪われ、家族や地域も縮小して寂しい老後が待つているような気がする」等。

坊守スケッチ ぼうもり

無形資産を育てる

リンダ教授は「数字に表され、目に見える【有形資産】と、目には見えない【無形資産】は、密接に関りを持つことがあります。高校生たちも「今まで日先の受験や就職などに追い回されていたが、長いスタンスで自分の生きる姿勢が問われる場所だと気づきました。私は人生百年時代に「無形資産を育てる場こそお寺ではないか!」と思いました。お寺に来れば、同じ悩みを抱えた法友との出会いがあります。「寺とも」とのつながりが、寂しい老後を支え、明るく確かなものにしてくれます。仏様の教えと、私達の祖先の生きる智慧がいっぱい詰まった教えを、謙虚に聞かせて頂き、私の老後の目標にしたいと思います。

仏様の教えと、私達の祖先の生きる智慧がいっぱい詰まった教えを、謙虚に聞かせて頂き、私の老後の目標にしますが難航しそうです。娘が一年生の時、代役で下校時の見守り隊をしました。引継ぎで受け取った小さなバッグには絆創膏や包帯などがぎっしり!長年の経験からまさかの事態に備えていたことがわかりました。多くの方に見守られ安心して学校へ通えることは、当たり前ではなく、有難いことだと気付きました。

病室に日の出拝める寒夜明 繩清風
鉛筆に黒ずむ指よ冬夕焼 繩秀龍
受験場つくえの下の靴袋 春の芽を秘密の場所に又見つけ
制服の採寸の列着ぶくれり
春隣日にち葉と指を折る

★総司胡柳(82) 1月20日往生合掌
カンバありがとう
本田和子様、KF様、富田和代様、西寺正様、他匿名様、感謝申し上げます。
「初参式」の赤ちゃん・幼児大募集!
4月20日(土)1時3全仏婦主催
お墓やお骨でお困りの方へ
墓じまいやお骨の置き場所にお困りの方、境内の新法縁廟や納骨堂をご利用下さい。詳しくは寺へご相談を!



若坊守の子育て日記 No.110

子供が通う小学校は、入学すると「見守り隊」の方にお世話になります。主に一年生の下校時に自宅近くまで付き添って下さるボランティアさんで、登校時も車通りの多い交差点で横断旗を持ち見守りをして下さいます。

長年「見守り隊」としてご尽力して下さった方が高齢で引退することになりました。二十年近く、夏も冬も高校の学校へ通い、やんちゃな一年生を率いて一緒に歩く「苦労を思うと頭が下がります。小学生の誘拐・殺人事件をきっかけに始められ、使命感を持つて務めて下さり感謝しています。

「見守り隊」はボランティアですが、学校からの要請もあり、後継者を決めなければいけません。責任があり、体力と時間も必要です。現在探していますが難航しそうです。娘が一年生の時、代役で下校時の見守り隊をしました。引継ぎで受け取った小さなバッグには絆創膏や包帯などがぎっしり!長年の経験からまさかの事態に備えていたことがわかりました。多くの方に見守られ安心して学校へ通えることは、当たり前ではなく、有難いことだと気付きました。

「善正寺だより」363号をお届けします。◇能登半島地震の被災地は、真宗王国であり、7割以上のお寺が被害を受けた。衷心よりお見舞い申しつつ、支援を継続したいと思う。◇東海地方は南海トラフ巨大地震が2、30年ほどの時期に発生する確率が高いと言われる。防災・減災への認識を持ちつつ、地域社会の絆を維持する必要性を痛感させられる。◇能登の惨状を視野に、念仏相続怠りなくと願う。合掌。

俳壇

満場を湧かす小兵や初相撲 繩妙水
もらつたよどこへ置いたかお年玉
火葬すみ悴む手の中ぬくもりが
柔らかに校舎に夕日春近し 釋樂邦
山搖らし山焼告げる冬花火
菜の花や家族四人の目玉焼 釋住安
理髪店ボインセチアの並ぶ窓
日記買う今年はどんな色塗るか
境内の絵馬に薰風紅白梅
寒灯や行間を読む紙の本 YM
ひとり居てふたりと思ふ石蕗の花
積む雪に降るや夜の雨ないの町
動かざる針山の如猫二匹 TS
建て替える梅の古木はそのままに
春の芽を秘密の場所に又見つけ
鉛筆に黒ずむ指よ冬夕焼 釋秀龍
受験場つくえの下の靴袋
制服の採寸の列着ぶくれり
春隣日にち葉と指を折る

二月から中日新聞で「謹モ彼のとき」という連載が始まりました。超高齢化社会になり、私の周りに高齢者夫婦や独占老人が沢山います。これは他人事ではない、いつ我身に襲いかかってもおかしくない」と関心を持って読んでいます。記事では認知症が始まつた老夫(87)を、一人で介護する老妻(81)と、近くに住む娘が登場、かかりつけ医が「このままで老妻がダランすると判断して、老夫の施設入居を勧めました。老夫は昼間体操やカラオケで楽しく過ごしますが、夕方になると玄関に立ちじっと外を見つめます、家に帰る」と言ひ張りますが誰も迎えに来ません。職員が戸をかけますが、玄関を動こうとはしません。他の利用者達が家族がいるのにどうして面倒見てくれないのか、「今まで一生懸命やってきたのに、一生ここでいても仕方ないと不平や不満を口にします。施設長は「まだお迎えの順番が来ていないよ。せっかく恵まれた命だから大切に生きよう。愚痴は全部聞くからね」と慰めます。施設入居を勧めた医師も「介護をする家族も誰かに話を聞いてもらうことでの救われる、地域で家族や本人のことを理解して話ができる人、頼れる人が必要です。一人でりそういう人がいることが大事です」と語りました。これを聞いて私はお寺の人間こそ、その役割が相応しいのではないかと思います。施設を利用する人と、介護する家族の両方の悩みを受け止め、心に安らぎを与えて貰う坊主にならたいと思ひます。3月16、17日の春季永代祭にぜひお参り下さいませ。講師は加藤学先生です。

合掌

令和大年三月

善正寺坊守 拝